

令和7年度 卒業論文要旨・講評

学 生 氏 名	梅 實 伯 斗
論 文 タ イ ト ル	DX時代に求められる税理士の役割に関する一考察 ～税務行政DXに係る主要施策・技術が与える影響～
要 旨	<p>本論文は、会計・税務の分野でデジタル化が進展する中、税理士はAI・デジタル技術に代替されるのかという疑問を出発点とした。そして、税理士の代替可能性と役割変容の検証、その役割を果たす上での課題の特定と解決策の提言を目的とした。</p> <p>分析の結果、DXは記帳代行等の定型業務を代替する一方で高度なコンサルティング需要を創出し、税理士の役割を作業の代行者から総合的アドバイザーへと転換させると結論づけた。しかし、この転換を阻む深刻な課題としてIT人材・知識不足が存在し、その主因は実効性を欠く現行の研修制度にあると特定した。この制度的要因の解決策として、IT関連科目の必修化と受講義務違反への罰則明確化による研修制度の改革を提言した。</p> <p>本論文は、税務行政DXを起点に税理士の専門職性が再編されていく過程を分析し、総合的アドバイザーへの転換を可能にする具体的な制度設計を示した点に独自の意義がある。</p>
講 評	<p>本論文の研究テーマは、AI・デジタル技術の進展により、これらの技術が専門職の代替となる可能性が予測される中で、税理士の役割がAI・デジタル技術に代替されるのかというものである。この研究テーマへの解決策として、税務行政 DX を起点に、税理士業務が再編される過程を整理し、税理士の役割が、従来の作業の代行者から、総合的アドバイザーへの質的変容および総合アドバイザーへの転換を可能にする具体的な制度設計を示したところに独自性がある。</p> <p>以上のように、本論文は、問題設定が適切であり、詳細な分析にもとづいて、独自性のある解決策の提言を行っていることから、最優秀卒業論文賞にふさわしい論文であると評価した。</p>